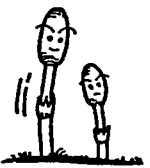


教育現場で思うこと(十九)

成木 肇士



先般、政府は行政改革の一環として、国立病院、郵政事業等には、改革の方向として「独立行政法人化」を示しました。国から独立した法人、つまり私企業化しようということですね。行政改革の柱である、自由化、個別化、多様化に沿うなら国立大学も独立行政法人化すべきでしょうが、政府は国立大学に対しては、何らの方向も示していません。政府(与党・官僚を含め)が大学改革におもいきった方策がとれない理由は、これまで日本の歴史について述べてきた事から想像できると思います。

学定員を厳格に定めて、それを基礎にして資金配分を通して、大学に大きな規制を加えていきます。政府(文部省)政治家は、本気で大学改革を考えているとは思えません。以下のような制度ができればよいと、私は考えています。「各大学は入学試験をなくし、自由に学生を入学させる。各大学は、あらかじめ卒業予定の人数や、必要な学力を決めて公表する。入学後進級試験でふるい



元来、政治と学問とは互いに共存することは難しい関係にあります。自己を保持するためには最も魅力ある手段です。教育、特に学問にとっては、権力がいかにやっかいなものであるかは、世界の歴史から見て明白です。新しい学問が、いかにその当時の権力によって弾圧されたかを思い出してください。また、大学にとつて最も大切で深刻な「資金」は、国立私立を問わず政府にたよっています。政府は入

にかけて、留年や中退させる。必要な学力が備わらない限り卒業させない。中退した学生は自分にあつた大学に転校する。転

できましました

「中山」登山道

①ピヨピヨコース ②アヒルコース ③カモシカコース。深小学校小林校長先生のアイディアで生まれた「深中山登山道」につけられた三ルートの特徴です。①コースは、幼稚園児から二年生用 ②コースは三、四年生 ③コースは高学年用です。深小学校は、校舎の裏五mがすぐ山という市内では他に例がない程自然環境に恵まれ、可愛いらす・タヌキ・キツネまでも子どもに面会に訪れます。小鳥も餌のおねだりに来るように、今日(三三三)もみかんの半切が小鳥を待っていました。

片道二〇分のコースです。頂上に立てば、今、大池の南に建設中の「サンライズ大池」が目に飛びこみます。峠新道・西野地区が一望でき、目を東に向ければ如水館高が見渡せまします。上組も西に位置する集落はほとんど見下ろせ、校長先生が言われるように、「実物大の地図」です。教室以外にも勉強する場はあるようです。私も取材方々登ってみました。結構よい運動になりました。たくましい体づくりにも、たくさんのおねだりに登ってもらいたいものです。 平岡

この登山道は、小林先生が子どもたちに「深町のたからもの」にふれさせ、自然に親しむことの大切さを体験するため、企画立案され、保護者全員に協力を求めて実現しました。三月始め二回ほど、小川PTA会長をはじめ、協力者十名がカメラや草刈機、チェンソー片手に汗を流しました。場所は学校のすぐ裏から中山(標高一九八四)に至る約一キロ、



学希望者には、各大学は今まで取得した単位は全て認める。入学者は必要とあれば、全員に奨学金を受けられるようにする。奨学金は学生本人が借りるのであり、卒業後何十年かかけて返済する。本心に勉強したい学生が、希望の大学で勉強すればよいのであり、勉強しない学生に現在のようにならぬ(税金)をむだ使いする必要はないと思います。入学試験をなくすれば、最初のうちは有名大学に学生が集中する可能性がありますが、卒業できないとわかって学費をむだ使いと学生は、次第にいなくなると思っています。自己負担ですから、大学側も優秀な学生には学費免除等で優秀な学生を集めることができるし、大学間の格差も縮まり、実力による良い意味の競争関係もできます。奨学金は、学生数三百万人で年間三百万円の貸し付けとして、九兆円の財源が必要で、社会全体からみれば先行投資で、将来世代への健全な貸し付けだから、不良債権になる危険も少ないでしょう。

大銀行への公的資金(税金)による資本注入と比べて、国民的合意も得られると思えます。大学入試がなくなら、本当に自分が学びたい人が、自分の金で大学に行くようになれば、高校以下の教育も「ゆとり」の中で生きる力を養うことができません。いじめ、不登校、学級崩壊等、小・中・高生の問題行動も少なくなるとお考えですか。 皆さんいかに

私はこう考える

意見をお寄せください

- 最近、学校をめぐる暗いニュースが連日のように新聞紙面を賑わします。
- 二月 学校 第三部、おとなへのてがみ
- 二六 中 3人授業中に飲酒
- 二一 県立世羅校長自殺
- 三三 女子補導数が急増
- 三四 非行防止へマニュアル
- 三九 給食に異物
- 一ヶ月に百十一件

以上、短期間に私の目に触れた限られた件数と内容です。一社会の大きな関心をよびました。九七年に起きた神戸児童殺人事件の残忍さは忘れられないものです。このような事故や事件の責任を、時代や社会、学校等に他人に転嫁することの適否を、冷静に考えてみたいものです。子どもの親として、自分の考えを述べてください。事件・事故は未然に防ぐことが第一。発生したら再発防止が至上命題。問題の先送りは一の愚策。 ▲

四月町内各種団体行事予定

小学校(幼)	(一部予定)	六日
始業式・就任式		七日
入学式		八日
離任式		八日
入園式		二日
内科検診		四日
参観日(お茶会)		七日
PTA総会		同日
家庭訪問	(中)	九日
同	(下)	二〇日
同	(上)	二二日
眼科検診		二八日
なかよし遠足		三〇日
町内会	(上)	一日
同	(中)	四日
同	(下)	八日
尚寿会	(向原で)	五日
女性会		一日
親睦会	(上)	一日
同	(中)	四日
同	(下)	三日
如水館(対外野球戦)		六日
江津工・萩工		六日
子ども会		三日
ソフトボール	(小坂との対外試合)	三日
深町人口		
今年二月末現在で千〇		
〇九人となりました。		
昨年、三月末は九八九		
人で、二〇人増です。		

夜空を眺めていたら流れ星が。子どもたちに「昔ね、流れ星に『この人と結婚できますように』とお願いしたのよ」と教えてあげた。後では夫が「A紙ゴシップ投稿記(二四四)の一部ですが、考え込んでしまいました。自分の子どもに「教えてあげた」という四〇歳女性の表現で、敬語の使い方としてこれは正しいのだろうか？と考え込みます。職場で課長職を呼ぶのに「課長さん」と呼ぶものなんでしょうか。私は、役職で呼ぶ場合「さん」は使わず、人稱で呼ぶ時は「さん」を使うのが正しいと思うのですがどうでしょう。「恩妻」なんて表現は、許されざる差別用語でしょうか。人の能力評価を否定する職域があります。「人」としては平等に扱われなければなりません。その人の持つ「能力」は明らかに違います。能力を正當に評価できない職域・社会は不平等です。これは、自分の子どもに敬語を使うこと、延長線上に、能力平等、年功序列思想がある。と私はみえます。近い将来、昇進&報酬=能力の時代となることは確実でしょう。

歳はとりたくない

河野 強

「アー歳はとりたくないナア」子供のころからよく耳にした言葉である。とるとか、とらないとかいっても、生きている限り自然に年寄りにならねばならぬのに、どうしてあんなことを大人は言うのだろう。と思っただが、いつしか自分がその立場におかれる年齢になり、この言葉の意味を真実の思いである。さる夏の夕方のことである。家から一キロメートル離れた田圃への灌水を止めに行つての事故である。自動二輪車(カブ)で、草の生えた細い道を、馴れと勘で乗って行き、仮橋の手前で車を止め、降りようとしたが路面が悪く、車が急に右に傾いた。やむなく右足で路面を踏むつもりが足掛かりがなく、宙を踏み、アッ!と思う瞬間に倒れ、即座にハンドルを手放して横に飛んだ。

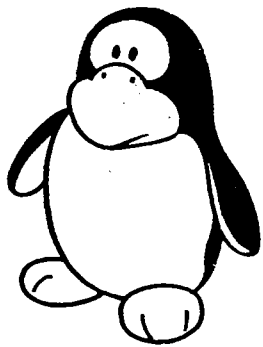
失楽園

坪見 博文

平成九年、小説「失楽園」が新聞掲載され、テレビ・映画で関心を集め流行語になった。私は、映画で途中から見たが、なぜか興奮しなかった。男女の裸の場面が幾度かあったのに、……年齢のせいかな。近頃不倫が唄に、テレビに日常生活にとけこんでいる気がする。私もしてみたいと思つたことはあるが実行出来ずにいる。多くの人は思いながらも出来ないのでは、と想像する。生きていて楽しい事、辛い事。選べば楽しい方をとる。不倫は快楽と思うがその後理性に与るられ、苦しむことを想像すると何も出来ない。辛い事が長く続くとストレスが溜まる。それを自分の力で支配出来てくる時は良いが、ヤケになると苦勞が始まる。私は最近やっとなんか辛そうに見える。食欲・性欲・金欲と色々欲を得られた時、快楽を味あう。私は、パツイチになるまではストレスが溜まると性欲に溺れた。何かに溺れると自分が支配出来なくなつた。それが今頃やっとなんか辛そうに見える。



もう辺りは暗く飛んだ所が悪かった。生い茂るクズ草の中へ頭から突っ込みそのまま川へ落ちてしまった。顔をかぶさつたヘルメットを直そうとしたが、どうしたことか右手が全然動かない。しまった、骨折したか! と不吉な予感が頭をかすめ、何か背筋を冷たいものが走つた。やおら左手で鎖骨を撫でてみた。おれてない。でも右手はだらりと下がり何の感覚もない。道から約一、五メートルの川の中。さいわい日照り続きで水が流れていない。助けを呼ぶにも一軒の家もなく、もう日もとっぷり暮れ通る人もない。見上げれば、空は一面に星が見えるだけだ。……何としても川から上がらねばとあせらせるけど、右手が動かないのでどうにもならない。絶対絶命になつてしまつた。しかし、人間生きづまると不思議に気が落ち着くものだ。左



受け付けなくなつた。身近に楽しい事があることを知つた。食欲は自炊で何でも食べられ、性欲は自分で調節出来る。金欲は持っているお金で生活すればよい。辛くなつた時は、昭和十九年から三十年までの私を思い出せば今の暮らしに不満はない。今、私の仕事は政治家の話す足踏み状態ではない。知人は昨年盆過ぎから最悪の景気と話された。だが、他人に迷惑をかけずに生きていく。考えを少し変化させれば、気づかなかつた幸せを得ることが出来た。昨年未、ジャンボ宝くじを買わなかつた。それで一万円得をした。夢の得はなかつたが……今年には不安定な世かも知れが「失楽園」と名のつく年になつてほしい。



手で右手を土手へ上げておき、やっとの思いで這いあがることが出来た。……嬉しかった。車はさいわい葛カブラに掛り、落ちる寸前で止まつている。もし万一、体の上へでも落ちかかっていたらと想像するとゾットした。救急病院へ行ったが、まんの悪いことは重なるものだ。整形外科医は二日ほど不在だという。当直医が「骨折してないようだ、痛み止めの薬をだすから明日掛かり付けの病院へ行きなさい」。三角布で腕を吊ってくれただけだった。整形外科病院では、レントゲンを撮り検査の結果、右肩内側の腱を強打した為筋が切れかかっている。治療には三ヶ月以上との診断がでた。それから通院を半年もして動くようにはなつたが、完治しないまま、後遺症として残つた。今にして想えば、もすこし若かつたら運動神経も働き、軽い怪我で済んだらうに、ほんに歳はとりたくないものだ。つくづく思つたりしたものである。でも物は思ひようだ、ここまです怪我も回復出来たことに感謝の念で日々を過ごしている。▲

春夏秋冬

雪の中寒さいとわず寒椿
自然の摂理いと尊し
立てし鉄先に止まりて小鳥居り
春一番と共に来しかや
三寒四温くりかえしつ、春待つ心
森羅万象道の小草まで

地頭職石原氏一族の墓
石原氏は、応安二(一三六九)年より、慶長五(一六〇〇)年に亘る室町戦国時代の約二三〇年間を、木頃庄(深・中野・本郷・木門田)



絵・船本輝明



の地頭職として、深の医王山田屋城を本城にこの地を治めた。村上山の山裾に苔むした宝印塔や、五輪塔の古墓が数多くある。

三月町内各種団体行事予定

- ◆小学校(幼)
 - お別れ遠足(幼) 五日
 - 新入学児一日入学 六日
 - 廃品回収 八日
 - 参観日・期末懇談会 十日
 - 子育てネットワークピヨピヨハウス(幼) 一日
 - 六年生を送る会 二三日
 - 卒園式(幼) 二〇日
 - 卒業式 二四日
 - 修了式(小・幼) 二五日
- ◆女性会
 - 親睦会 上 四日
 - 中 七日
 - 下 六日
- ◆役員会 未定
- ◆子ども会 二一日
- ◆お別れ会 二一日
- ◆上町内会
- ◆遊歩道草刈り 一日
- ◆如水館高校
 - 第四回卒業式 一日
 - 野球部沖繩遠征 二三日



仏經西本願寺発行「大乘」新年号に、梶谷マサヨさんの投稿「主人の一周期を迎えて」が掲載されました。今後共健筆を期待したいものです。

しいたけ

深小学校(小森)六年生(七人)が卒業記念に椎茸を二千本に植えつけました。

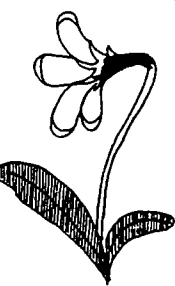
今の三・四年生が卒業するまでには、立派な椎茸を見ることができると思っています。(原木は岡本義弘)様の無償提供です。植え付けは尚寿会(会長 志役 員約十名の協力を得ました。二)

地域と学校が一体となって、子どもが「自然」と「勉強」に打ち込める環境づくりをしたいものです。植え付け終了後、子どもとお

年寄りが一緒にお茶をのみ、その後、パソコンで交流を図り、楽しい一時を過ごしました。

深の歴史余話 (十二)

高崎 壽郎



堂さん巡り (3) 高崎 壽郎
 堂の構成と沖成瀬地蔵堂 同 観音堂

堂の構成は、深の場合多くが一間一四角四方で、四本柱を建て寄せ棟造りで、屋根は草葺床は板張りだった。どの堂も、周囲は壁をつけず吹き抜けの方形堂となっており、建物全体は「高倉」に類似している。

観音堂の歓喜天



明輝本船 絵

尊は地藏菩薩で、黒色地藏尊、金色地藏尊の各二体と、広目天、増長天、持国天、多聞天の木彫立像四体から成る。新しくて、重量感のある立派な「堂」である。

沖成瀬観音堂は、上組西昌弘さん宅の裏山にある。木造寄せ棟造りカワラ葺。以前は道路脇にあったが、破損が激しくなり、昭和五年(一九三〇)に現在地に移転。堂守は西義輝さん。本尊は明治十三年(一八八〇)

理は成末さん一家。木造寄せ棟造りカワラ葺。本の堂宇の調査で、十一面観音菩薩となっていたが、実際にみて

吃驚した。「歓喜天」である。いつ頃かわからないが、本尊は入れ換わったらしい。

大辞典によると、「『歓喜天』とは、頭は象、身体は人間の姿をした仏法守護神。もとインド神話の魔王で、のち仏教にとりいれられたもの。単身象と双身象とあり、双身象は、男神と女神が抱擁する姿をとることが多い。夫婦和合、子宝の神として信仰される」とある。

「歓喜天」は、朱塗りの厨司におさまった高さ一五センチの青銅製(ブロンズ)の立派な双身像である。

後で近所の人に聞いたのであるが、どこで聞いたのか、花街人が大勢でお参りに来たことがあるとか。

この観音堂は他の堂と異なり、三方が板張りで一見小屋風の建物である。これなら寝泊りもできる。

棟札も五枚残っており、その一枚は享保十五年(一七三〇)で、今まで発見されたものでは一番古い。

それには、国家安全、百姓安全、村内繁昌を祈願していることが記されている。村全体を考えていることは素晴らしい、大変嬉しいことである。

春 この言葉が一番頭に浮かぶのは、新しいランドセルを背にしたピッカピカの一年生の姿です。

今年も小学校に十一人(昨年は十五人)の児童が入学します。幼稚園は少し寂しく六人(昨年は九人)です。

四月新学期から、小学校児童数は八十一人、幼稚園々児数は十四人(三十三名)になります。



梶谷マサヨ

春夏秋冬

誕生日 祝いの品は 胡蝶蘭

三本仕立の 白清楚なり

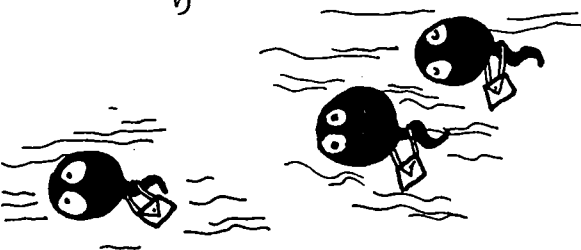
次々と 親戚知人も旅立ちし

弥陀の慈光に 今日を謝しおり

いつの日か 弥陀に召さるゝ時のあり

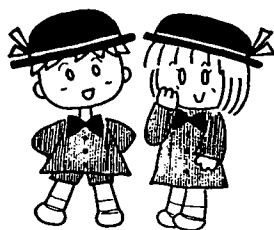
今日一日を 清く生きたし

☆ ☆ ☆



入学者		入園者	
数	氏名	数	氏名
11	奥本 悠暉	6	山下 友哉
10	小林 大祐	5	田代 万桜
9	小林 優樹	4	小川 由祐
8	小林 良輔	3	小林 健人
7	竹内 優	2	前田 孝尚
6	宮永 靖士	1	村井 寛太
5	屋敷 隆大		
4	岡村 遊		
3	迫 真沙美		
2	網掛 愛美		
1	桃北 愛梨奈		

入学・入園おめでとう



有難うございました

郷土伝統芸能に深い関心をお持ちの深小学校長小林龍一郎先生から、盆太鼓一鼓の寄贈をうけました。

子どもたちも盆行事をはじめ伝統行事に参加しています。一段とその幅が広がり、大人と児童の交流に役立つことと思います。

柔道で全国大会へ

如水館高校女生徒二年北川 望さんが、三月二〇日東京で行われた、第二一回全国高等学校柔道選手権大会に広島県チームの代表として出場し、よく健闘しました。

